

第1部 パネルディスカッション「住んでみたらこんなところだった」

13:15～14:15

昨年度までの「帰国報告会」を少しリニューアルし、本年度は、山口市地域おこし協力隊員で、中国、フランス、オランダそしてコロンビアと豊富な海外経験をお持ちの平塚さんにも参加していただいた。個々人の海外生活経験をつなぎ合わせて「コミュニケーションとは」を探る企画とした。

ブラッセル日本人学校で勤務された長門市立仙崎中学校の赤木先生からは、スポーツ（剣道）を通してのコミュニケーションについて、バンコク日本人学校に勤務された周南市立桜木小学校の高見先生からは、コミュニケーションにおけるアルコール飲料の効用や言葉が通じないことへのストレスについて、各国の事情の解説にとどまらず、「コミュニケーション」というテーマに則して深まりのあるお話をうかがうことができた。また、フロアからも音楽を通してのコミュニケーションについて話題が提供され、会場全体で「コミュニケーション」について語り合う雰囲気が生まれたことは、コーディネーターがねらっていたところでもあり、まずまずの成果を上げたといえるのではないだろうか。

国際教育研究会が、グローバリズムを推進する教育について、何らかの提言を行う役目を担っていることを考慮すれば、海外生活の生の声を届けるということに加え、今回のようにテーマに沿ったディスカッションを取り入れることも必要であろう。しかしながら以下のアンケート記述にも見られるとおり、「各国日本人学校の具体的な様子がもっと聞きたい」という要望もあり、参加者の満足度が最大となる時間の配分を探る必要がある。

第1部に関するアンケート記述

- 自分が外国人にどのようにみられたかということも話してもらいたかった。
- いろいろな体験が聞けてとても良かった。コミュニケーションについて深く考える機会となった。
- 思い出ばかりではない構成にされていたのが良かったと思います。
- ベルギー、タイ、またフランス等のお話、大変興味深くお聞き致しました。それぞれの文化に飛び込んでたくさんのことを学べるって楽しいですね。本当にありがとうございました。
- いろいろな国の話が聞けて大変興味深かったです。
- コミュニケーションについて考え直すことができた。
- 大変興味深く聞かせていただきました。
- いろいろな国の様子が様々な視点で見られてよかった。
- 大変貴重な話を聞かせて頂きました。より具体的に学校での様子を聞きたいと思いました。

- 海外の生活経験の生の声がきけて、日本人学校について具体的な話がきけて魅力的でした。
- 各国の日本人学校の特色をもう少し多く聞けたらよかった。
- 自分の印象とは違った海外での生活を知ることができました。海外へ行こうと思った動機などもっと聞いてみたいことがたくさんでした。
- とても勉強になりました。
- コミュニケーションという視点を外国語科にも生かしていきたいと思う。
- 日本人学校に行かれた方々の生活の様子やコミュニケーションについてのお話がとても参考になりました。個人的には特別支援教育や学校生活について聞ける時間や機会があればうれしかったです。
- 写真を見せていただいて夢が広がりました。
- 住んでみたらということで教員でない平塚さんもパネラーに入っておられたのが良かったです。住んでみたらということで日本に住んだ感想を外国の方に話してもらうのもおもしろいかもしれません。

第2部 ワークショップ「楽しく学べるSDGs（エスディーゼズ）」

14:20～15:20

1 SDGsについて（説明）

- ・ 国連が採択した持続可能な〇〇についての開発目標（17の目標）



「SDGs」とは



2 「日本に必要な課題は？」（ワーク）

- ・ 17枚のカードから選ぶ。選んだ理由を話し合う。



カードを使っでのワークショップ

3 「誰一人も取り残さない」について（説明）

- ・ 日本と他国の比較



日本はいくつ達成した？



4 「私のSDGs宣言」(ワーク)

- ・ 自分でできることを用紙に書く。



白熱した議論

5 その他

- ・ SDGsはメディア等で取り上げられる新しい指標である。この指標を活かして話し合うことで主体的対話的な深い学びの一助になると感じた。
- ・ 実際に授業で取り入れている事例も増えている。情報交換をしながら少しずつ広がっていけばよいと感じた。

第2部に関するアンケート記述

- 授業に使える流れで良かった。
- SDGsについて自分ごととして考えることができた。
- 持続可能な目標に向かっていろいろな問題を具体的に考えられてすごく充実した時間でした。ぜひ子どもたちと一緒に考えてみたいです。
- 世界の問題について改めて考えることができた。
- 教育のゴールと重ねていけたらいいなと思いました。
- 違った分野・専門・角度からのお話がお伺いできて良かったです。
- SDGsがよくわかった。
- SDGsについて大変分かりやすく説明して頂きました。より身近に感じました。
- とても貴重な経験になりました。これから教育現場で実践していければと思います。
- JICAに興味があるのでとてもよい時間になりました。
- SDGsという考え方を子どもたちにも広げていけるといいと思った。
- JICAについて興味があるのでまたくわしく知りたいです。SDGsについて名前は聞いたことはあるもののくわしく知る機会がなかったので大変良かったです。自分の意見や他の方々の話も聞けて嬉しかったです。勉強になりました。
- 授業に使えるそうと思いました。ぜひ使ってみようと思いました。

第3部 ワールド・カフェ「世界の話から国際教育について考えよう」

昨年に続き2回目の企画であり、昨年度同様少人数のグループを編成しその中に国際交流員など海外の生活について語れる人を交えグループ内で文化の交流をしてもらおうというものである。

1 準備作業

《人選》

参加者数から7~8グループを編成し、各グループに最低1人は海外の様子を語れる人を配置するよう人選を行った。その際、昨年度の反省を踏まえ海外の様子を日本語で語れる人を選定の条件とし、主には県内在住の国際交流員を中心に考え関係機関と連絡を取った。その結果、山口県国際交流員が4名、山口市国際交流員が2名、山口市地域おこし協力隊2名（日本人2名）、山口市在住のスペイン人1名の計9名にワールドカフェへの参加をお願いした。

《打ち合わせ》

9名それぞれに、事前にワールドカフェのねらいや方法、グループ協議の内容について以下の点を直接会って説明した。

- ・ グループ協議の最初に、話題提供として2~3分程度「日本についての感想」「自国の教育と日本の教育の違い」について話をしてもらうこと
- ・ 協議のテーマは特に設定しないので、話し合いはフリートークで良いこと
- ・ グループ内にはファシリテーターを1人配置するので、困ったらファシリテーターを頼ること
- ・ 1回の話し合いは20分とし、時間が来たらメンバーを変えてまた話し合いを行うこと。（3回繰り返す）

なお、ワールドカフェ当日も30分程度早めに集まってもらい、最終の打ち合わせを行った。

2 当日の様子

国際教育研究会当日は50名弱の参加があり、参加者を8グループに分けてワールドカフェを行った。1時間の予定であったため、1回を20分とし3サイクルの小グループでの協議を行った。その際各グループには、国際教育研究会役員がそれぞれのグループにファシリテーターとして入り、依頼した国際交流員等とファシリテーターだけを固定し、他のメンバーは3回ともすべて入れ替える形で行った。

前のプログラムの時間が超過し、予定された時間も十分に取れなかったがファシリテーターのリードもあり、各グループとも7~8名のメンバーによるスムーズに運営されながらも活発な協議が行われた。

3 成果と課題

今回、日本語が話せることを前提に国際交流員等を選定したため、ワールドカフェでの1回の協議時間は20分と短めではあったが、話し合いをスムーズに進行できた。また国際交流員等とファシリテーターをコンビにしてグループに固定したため、ファシリテーターも2回目、3回目の協議では話しの展開が予想でき進行も進めやすそうであった。国際交流員の方々にも事前に直接会ってワールドカフェの趣旨や期待する役割を伝えることができたので、話し合いの中でも大きく話題がそれることがなく時間を有効に使うことができた。そのため、ワールドカフェが活発な話し合いとなり、参加者との交流も進み参加者全員にとって満足度の高いワールドカフェとなった。

その一方、時間設定が1時間であったため、最後にグループ内で交換された意見を全体で共有する時間が取れなかったのが残念であった。また、ワールドカフェがその日の最後のプログラムであり、せっかく交流した人々がこの機会をきっかけにより親しくなるようなプログラムをワールドカフェの後に設定することができなかった。参加者同士がさらに交流できるような時間があれば、研究大会そのものがより充実した会になったのではないかと考える。

